

「静岡県地震対策オペレーション2018」に参加

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、1月17日（水）、静岡県庁（静岡市）及び沼津市、下田市、藤枝市、磐田市で実施された「静岡県地震対策オペレーション2018」に参加した。

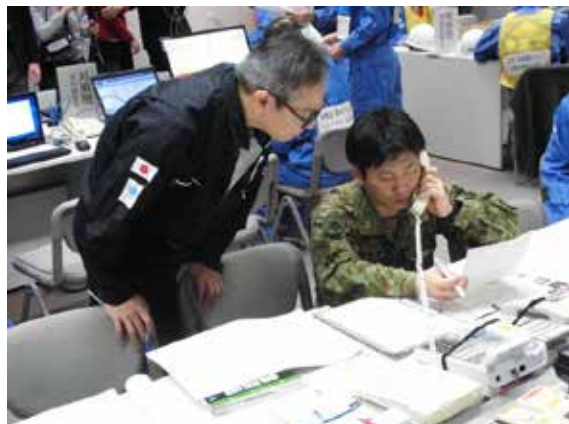
この訓練は、静岡県が主催して毎年阪神・淡路大震災の発生日に合わせて実施しており、大規模地震が発生した場合の県、市町、自衛隊、消防及び警察等の関係各機関の業務調整・情報共有等に関する対応要領を図上訓練方式で演練し、県が作成中の対策計画の実効性を検証するとともに、各機関との一層の連携強化を図るものである。

静岡地本からは、県庁並びに東部（沼津市）、賀茂（下田市）、中部（藤枝市）、西部（磐田市）の各方面本部に連絡要員として隊員8人を派遣したほか、陸上自衛隊からは東部方面総監部（東京都練馬区）、板妻駐屯地第34普通科連隊（御殿場市）、海上自衛隊からは横須賀地方総監部（神奈川県横須賀市）の要員がそれぞれ参加した。

訓練は、大規模地震発生後の県庁及び各方面本部における対策本部の立ち上げから自衛隊への災害派遣要請、救助拠点の開設、救援物資の確保と輸送等の各状況における対応要領を演練した。

本訓練に県庁連絡要員として参加した静岡地本国民保護・災害対策連絡調整係の秋山乾之郎事務官は「このような形の図上訓練への参加は初めてで緊張したが、いつ発生するかわからない大規模地震に迅速かつ的確に対処するためには、このような訓練を地道に積み重ねていくことが大切であると感じた」と語った。

静岡地本は、今後もこのような訓練に積極的に参加し、大規模地震を始めとする各種自然災害への対処能力を更に向上させていく。



状況付与の調整内容を確認する地本隊員（左）



関係各機関と対応要領を打ち合わせ

中部航空音楽隊が中学生に演奏指導

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、1月26日（金）、グランシップ（静岡市）において行われた航空自衛隊中部航空音楽隊（浜松基地）による静岡市立大里中学校吹奏楽部への演奏指導に協力した。

これは、翌日に行われる「第37回静岡音楽祭」に双方とも出演することから実現したもので、同校の吹奏楽部員59人に対し楽器のパートごとに個別指導を行った。

各控室に分かれて行われた指導では、翌日の音楽祭で生徒が披露する「コンサートマーチ アルセナール」を力強く演奏する技術などを隊員が手本を見せながら指導するとともに、演奏前に行っている準備方法や演奏をする心構えなども伝えた。また、生徒から「音色を綺麗に出すための秘訣を教えてください」という質問があり、隊員は「音の色、形、重さなどを常にイメージして、その全部がそろった時にいい音が出る」と音楽家ならではの視点で教授すると、少しでもプロの技術や考え方を吸収しようと生徒たちは真剣な眼差しで指導を受けていた。

静岡地本は、今後も地域や若者と自衛隊を繋ぐ活動を実施していくとともに、音楽の道を志す若者に自衛隊にも音楽を専門とした職種があることを知ってもらえるよう広報活動に努めていく。



隊員からさまざまなアドバイスを受ける中学生



プロの演奏技術を直接指導